

## 木造軸組工法による耐火建築物の開口部（サッシ・ドア）納まり参考図について

木造軸組工法による耐火建築物の開口部（サッシ・ドア）は、特に、外壁の屋外側の耐火被覆の総厚さが大きく、納まり等が判り難いとのご意見が多くあります。

一方、2017年3月、一財）日本建築センター発行の「木造建築物の防・耐火設計マニュアル 一大規模木造を中心として」では、外壁の開口部にサッシ等を取り付ける場合の考え方が例示され、これを踏まえ、木住協の「木造軸組工法による耐火建築物設計マニュアル（第6版）〈本編〉」でも開口部の納まりの例示として整理しました。

これらの例示は概念を示すものであり、具体的な納まり図でないことから、木住協では、木住協の会員企業のサッシメーカー各社の協力の下、開口部（サッシ・ドア）の納まり例を参考図として纏めました。

なお、この参考図はサッシ・ドアについて、共通の図として代表例を示しており、実際の計画にあたっては、以下のご確認をお願いします。

- ① 耐火被覆の種類や厚み、層構成等は、耐火構造の大臣認定構造や告示仕様により異なりますので、該当の大臣認定構造等の内容をご確認ください。
- ② 住宅用サッシを前提に例示していますが、サッシには仕様バリエーションがありますので、ご使用になるサッシメーカーにご相談ください。  
また、フロントサッシ、ビル用サッシ等については、別途サッシメーカーにご相談ください。

木住協の「木造軸組工法による耐火建築物設計マニュアル（第6版）本編」は、国研）建築研究所の監修を得ていますが、本納まり参考図は監修の対象外となります。実際の建築計画に際しては、計画建築物の所管の特定行政庁等へ事前に相談等を行い、設計者による具体的な納まりを検討することをお勧めします。

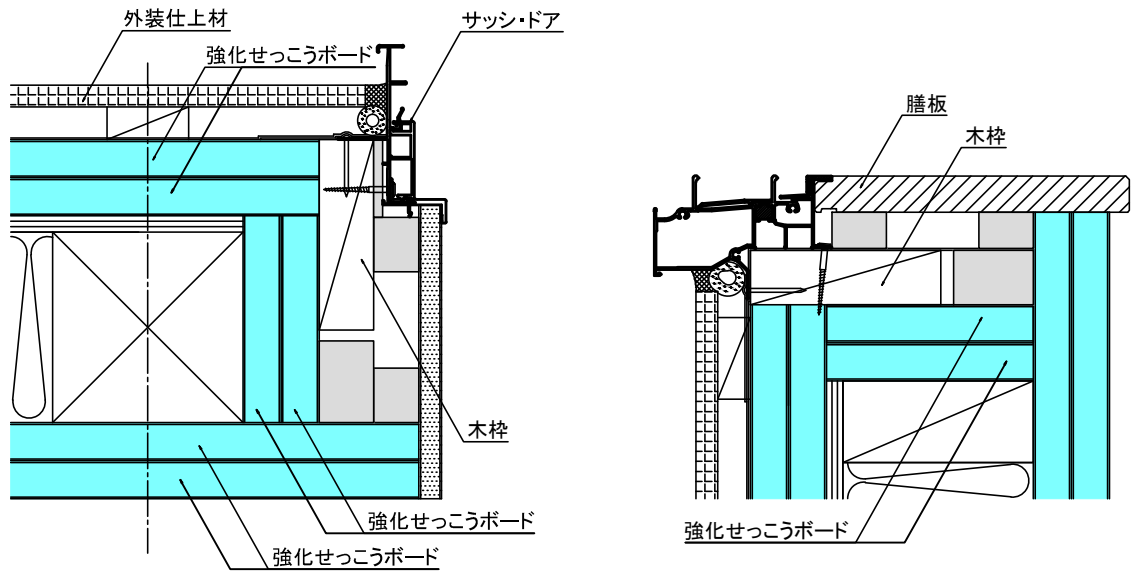
平成 29 年 7 月

（一社）日本木造住宅産業協会 技術開発委員会  
木造防耐火性能研究WG

## [木造耐火建築物の開口部(サッシ・ドア)納まり参考図]

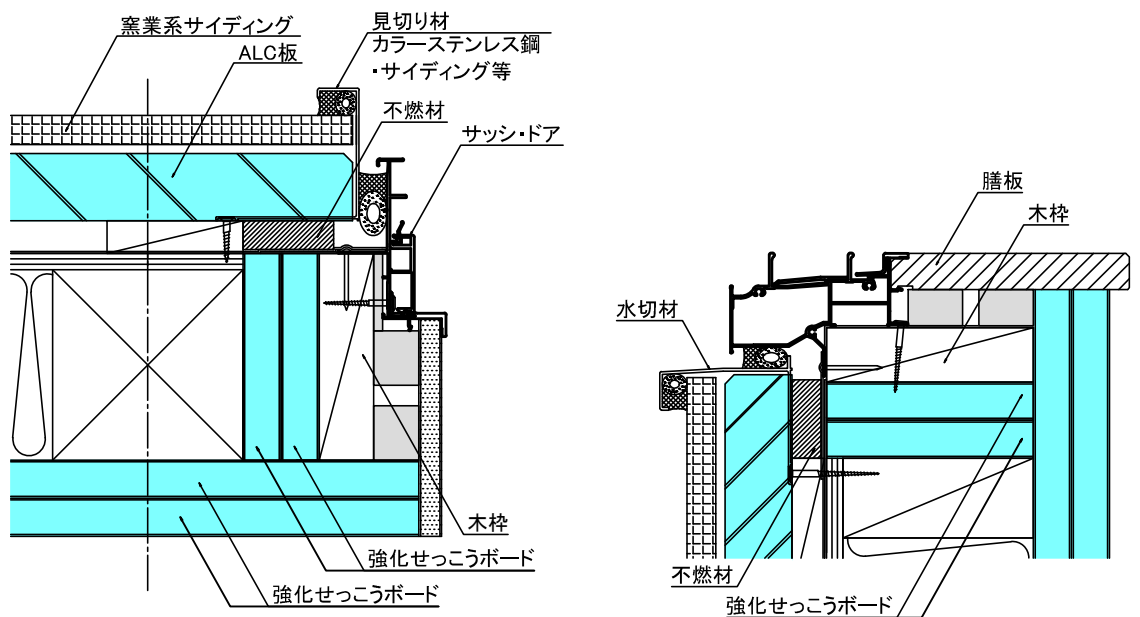
### ■ 1時間耐火

屋外側を強化せっこうボードによる耐火被覆とする場合



1. 取付けビス・釘の位置や長さ・太さは、使用するサッシやドアで異なります。
2. 図は1時間耐火の場合を示します。厚さ及び詳細は、告示又は大臣認定によります。
3. 木柱は耐火被覆を貫通して柱・間柱・窓台・まぐさ等に適切に固定します。

屋外側をALC板 及び窯業系サイディングによる耐火被覆とする場合

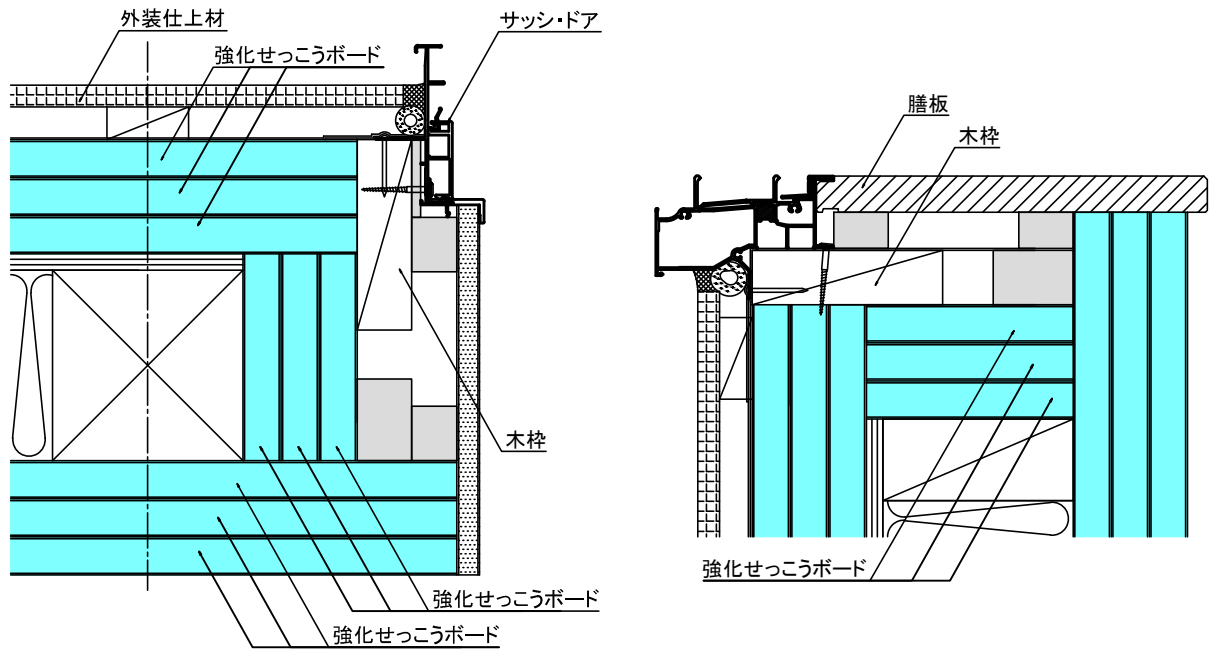


1. 取付けビス・釘の位置や長さ・太さは、使用するサッシやドアで異なります。
2. 図は1時間耐火の場合を示します。厚さ及び詳細は、大臣認定によります。
3. 木柱は耐火被覆を貫通して柱・間柱・窓台・まぐさ等に適切に固定します。

# [木造耐火建築物の開口部(サッシ・ドア)納まり参考図]

## ■ 2時間耐火

屋外側を強化せっこうボードによる耐火被覆とする場合



1. 取付けビス・釘の位置や長さ・太さは、使用するサッシやドアで異なります。
2. 図は2時間耐火の場合を示します。厚さ及び詳細は、告示又は大臣認定によります。
3. 木枠は耐火被覆を貫通して柱・間柱・窓台・まぐさ等に適切に固定します。